よえもん

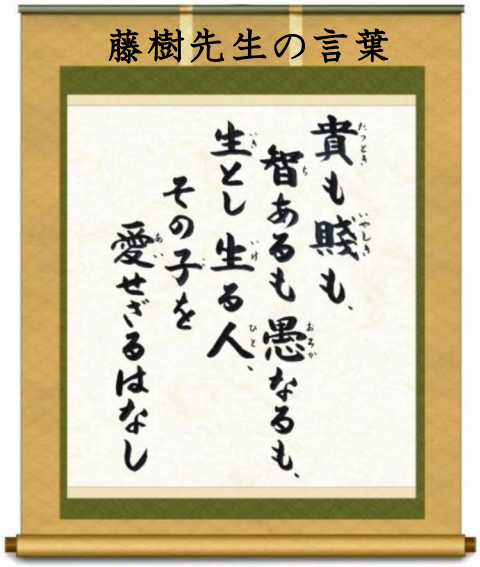
≪第90号≫

2024年6月発行

みなさんに、藤樹先生の教えを親しみをもって学んでもらいたいので、今年度は、よえもん新聞を90号から92号までの3回のシリーズで発行します。

中江藤樹先生は、江戸時代はじめのころ、慶長１３年（１６０８年）小川村（現在の安曇川町上小川）に生まれました。小さいころの名前は、よえもんといいました。この新聞名は、藤樹先生の幼い頃の名前にちなんで、「よえもん」と名付けました。

藤樹先生の言葉



書　渕田瑞穂さん

この言葉は、藤樹先生が数え年４０歳の時に書かれた本『鑑草』「教子報」という中にあります。

「身分の高い人も低い人も、かしこい人もおろかな人も、生きている人はすべて、その子を愛せずにはいられない」という意味です。

親はなにがあってもいつでも子を愛します。だから、その子は親を敬えるのです。この親の子への愛しみの心が、藤樹先生の言われる孝行をするための元なのです。

第１回　『孝行』

孝行とは、お父さん、お母さんを大切にし、きょうだい仲よく助け合い、まわりの人と仲よくすることです。

また、友だちとも仲よくして、健康で元気に勉強や運動にはげむことです。藤樹先生はこの「孝の心」を大切にし、家族やまわりの人たちを、思いやりました。

明治時代の作家・村井弦斎が書いた、「近江聖人」という少年向けの読物のなかに、１２歳の藤樹先生が雪の降るなか「あかぎれこうやく」(傷に塗る薬)をお母さんに届ける場面があります。お父さんが亡くなり、一人になったお母さんのことを心配した藤樹先生が、２度も大洲（現在の愛媛県大洲市）から小川村へ迎えに戻ったことや、それをお母さんが断ったことをもとに書かれ、この「孝行」の話は代表的なエピソードとして知られています。

「近江聖人」さし絵

藤樹先生孝養像

職員だより

来年（2025年）近江聖人中江藤樹記念館は、同じ高島市内にある高島歴史民俗資料館、朽木資料館、マキノ資料館と合併して、新しい施設に生まれ変わります。

４館では、引っ越しの真っ最中です。藤樹先生が書いた本や手紙、市内から発掘された縄文時代から平安時代の土器（お皿やうつわ）など、たくさんの大切な資料を傷つけないように、ていねいに包んだり、運んだりしています。

近江聖人中江藤樹記念館
（高島市教育委員会事務局 文化財課 TEL（0740)-25-8559）